Onisi

プレスリリース
2007年12月7日
尾西食品株式会社

2007年12月6日、日本経済新聞朝刊に掲載しました全面広告が、第56回日経広告賞D部門（食品・医薬・化粧品・日用品）で準部門賞を受賞いたしました。

2006年12月27日、2007年1月17日、2007年1月24日、の3回シリーズで日本経済新聞朝刊に掲載しました15段広告が、これからの広告活動の指針となる優れた作品と評価されました。

日経広告賞は、1952年に始まった歴史ある日本の代表的な広告賞で、企業のマーケティング活動に貢献し、かつ広告表現の優れた作品に与えられるものです。新聞広告の持つ機能と可能性をさらに大きく展開させる広告作品の中から、有識者からなる審査委員会の審議を経て決定されました。

受賞した広告は、1回目の「震災は来ると想定する」篇では、薄暗いビル内の非常灯という災害時の雰囲気を出し、被災時の食糧備蓄の必要性を訴えました。

2回目の「社員を守れる社長か」篇は、阪神淡路大震災が起こった1月17日に合わせ、薄暗い室内での携帯電話の操作を背景に、インパクトのあるヘッドコピーを用いてメーンターゲットである会社トップから危機管理担当の皆様にメッセージが伝わることを期待しました。3回目の「水だけでも、ごはんになること」篇では、ビジュアルを大きく変え、主力の「尾西のごはんシリーズ」の中から袋を開けた山菜おこわを紙面一杯に出して、水だけでも本当においしいご飯が出来る上がることを表現しました。

2007年1月24日掲載　「水だけでも、ごはんになること」篇